

## ◆ 巻頭言

# 「実効性」に腐心 —第3次男女共同参画基本計画の策定

鹿嶋 敬

第3次男女共同参画基本計画に何を盛り込むか。総理からその諮問を受けたのが、2009年の3月だった。それから1年あまり。2010年4月15日の男女共同参画会議で、同計画の中間整理を報告した。

第3次基本計画のポイントは何かと問われれば、「実効性」とお答えするのが一番だろう。4月の参画会議では、冒頭、総理から「実効性のあるものを作ることが大切」という発言があったし、司会を務めた福島男女共同参画担当大臣、議長の平野官房長官からも、相次いでこの言葉が口をついて出た。

「実効性」がキーワードになった背景には、伏線がある。2月の参画会議で、私は第3次基本計画・中間整理案の概要を説明したが、ある閣僚から次のような指摘を受けた。「もっとエッジを効かせる必要がある。このままでは何も変わらないのではないか」。

この言葉を、私は前向きに受け止めた。起草委員会に持ち帰り、エッジを効かせるための手法を検討した。その一つが、ポジティブ・アクション（積極的改善措置）の推進である。具体的には3つの方法を考え、例えば政治の分野では女性候補者比率の「クォータ制」の導入を提言した。

女性管理職などを増やす手法としては、男女共同参画に積極的に取り組む企業を公共調達、税制等で評価・優遇する「インセンティブ付与」を書き込んだ。さらにすべての分野で指導的地位の女性を増やすため、数値目標とスケジュールを設定した「ゴール・アンド・タイムテーブル方式」の徹底も強調した。

公聴会やパブリックコメントを通じて国民からの意見も聴き、6月には総理に答申する予定である。雇用破壊や少子化といった難問を抱えるこの国にとって、男女共同参画の理念を理解・浸透させることが難局打開の鍵になると確信している。



## PROFILE

鹿嶋 敬  
(かしま たかし)

日本経済新聞社編集委員、論説委員等を経て2005年から実践女子大学人間社会学部教授。内閣府男女共同参画会議議員。日本生産性本部・ワーク・ライフ・バランス推進会議、ワーキングウーマン・パワーアップ会議代表幹事。2009年に第13回赤松良子賞（国際女性の地位協会）受賞。著書に『恵里子へ 結納式の10日後、ボリビアで爆死した最愛の娘への鎮魂歌』（日本経済新聞出版社）、『男女共同参画の時代』（岩波新書）など。